



■約87万トンのヘドロを処理

田子の浦港のヘドロ処理は、昨年と一昨年の2回にわたって行ない、これまでに約45万トン进行处理しました。しかし、田子の浦港の中にはまだ約87万トンのヘドロが堆積していると推定されています。そこで、今回は残っているヘドロを処理するために5月19日から、第3次のヘドロ処理作業をはじめました。

第3次ヘドロ処理作業は、前回と同じように、田子の浦港から富士川河川敷まで鉄パイプを布設し、ヘドロを送ります。富士川河口には、30万4000平方メートルの敷地に沈澱池を8カ所つくり、送られてきたヘドロを入れます。

作業は船の出入があるので、昼間はさけて午後6時40分から翌朝7時まで行なっています。なお、田子の浦港や富士川河川敷周辺では、ヘドロ処理にともない、二次公害が発生しないよう、県公害課が中心になつて24時間常時監視を行なっています。



■サクラの名所づくりすすめる

—大淵青春友の会が—

「大淵地区をサクラの名所にしよう」と、自分たちの手で緑のまちづくりを進めている、大淵青春友の会は、さきごろサクラの苗木を植樹しました。植樹はくすの木学園をはじめ、ふじやま学園、大淵第1小学校など大淵地区の公共施設11カ所へ行ないました。

■大気汚染の調査に新鋭機

市公害課の職員が発案した、大気中のPHを測定する機械が、このほど東京の電気化学メーカーの手によつて試作されました。

大気中のPHによる影響は、ガスによるものと雨によるものに区分されます。ガスによる影響は、自動記録計によつて常時監視を行なっていますが、雨による影響は調べることはできませんでした。しかし、新しい機械の開発によつて、雨の中のPHや雨量とPHの関係なども調べるできるようになりました。

※PH…溶解中の水素イオンの濃度で、溶液中の酸分、アルカリ分を推定するのに用います。

